

科目名	機材メンテナンスⅡ		担当講師	福岡 博美	
講師実務経験	音響/録音エンジニア				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	XLRコネクタ/TRSフォンコネクタを使用したケーブル作成の処理を修得する				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月8日	ケーブル、コネクタの種類などの復習、TRSフォンコネクタ/RCAプラグのしくみ用途について			
2	5月15日	XLR-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ			
3	5月22日	XLR-TRSケーブル作製 適した長さで被覆剥き～予備ハンダ～チェック、完成まで			
4	5月29日	RCA-TRSケーブル作製の手順/作製			
5	6月5日	RCA-TSケーブル作製の手順/作製			
6	6月12日	苦手作業の克服			
7	6月19日	実技修得度確認①			
8	7月3日	実技修得度確認②			
9	7月10日	前期講義まとめと試験対策			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
	成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	ラジオ実習Ⅲ		担当講師	八幡淳	
講師実務経験	FM NORTH WAVE、AIR-G'、HBCラジオ、STVラジオでパーソナリティ、コミュニティFM(エフエムアップル、FMおたる)での番組制作				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	135 分
修 得 目 標	ラジオの存在意義～番組制作までを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月8日	ラジオとは? : 公共性を学ぶ			
2	5月15日	ラジオの存在意義: 有益な番組作りとは?			
3	5月22日	各機材の役割と使用方法。基準の取り方。			
4	5月29日	伝えるとは? I : 番組の企画書・キューシートの役割			
5	6月5日	企画書を基にした番組制作			
6	6月12日	制作した番組の収録と検聴			
7	6月19日	伝えるとは? II : 起承転結・事象の理解を深める			
8	7月3日	起承転結・事象の理解を深めた番組制作			
9	7月10日	屋外収録+屋外でのネタ作りを学ぶ			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法: B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	MA実習Ⅲ		担当講師	田莉子和之	
講師実務経験	音楽・番組制作会社勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	ビデオ制作における音声編集の知識と技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月8日	授業ガイダンス／MAの概要・知識について			
2	5月15日	作業準備 / ダイアログの整音(1)			
3	5月22日	作業準備 / ダイアログの整音(2)			
4	5月29日	ナレーション・アフレコの収録(1)			
5	6月5日	ナレーション・アフレコの整音(2)			
6	6月12日	ナレーション・アフレコの整音(1)			
7	6月19日	ナレーション・アフレコの整音(2)			
8	7月3日	実技習得度判定試験			
9	7月10日	定期試験対策 / まとめ			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	27時間中 9時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	PA基礎実習		担当講師	久本 晃三	
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	PAの機材、仕事内容を理解し基本的な機材の取り扱いや、簡易PAシステムの設置&モニターオペレートを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月9日	オリエンテーション、ケーブル巻き、PA仕事説明			
2	5月16日	PAコンソール(卓)、モニター仕込み図説明			
3	5月23日	仕込み図を見ての仕込み作業(マルチ無)			
4	5月30日	仕込み図を見ての仕込み作業			
5	6月6日	仕込み作業試験			
6	6月13日	モニタースピーカー、AUX等の説明			
7	6月20日	モニター送りの基本オペレーション仕込み練習			
8	7月4日	モニター送りの基本オペレーション練習			
9	7月11日	モニター送りの基本オペレーション試験			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など)				
	成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	音楽概論		担当講師	曾山良一	
講師実務経験	ギタリスト・Recエンジニア歴40年				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
修 得 目 標	音楽産業の仕組みを理解し、エンジニアと演奏家の関係性を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月9日	エンジニアと演奏家の関係性について			
2	5月16日	レコード会社について			
3	5月23日	プロダクションについて			
4	5月30日	音楽産業の過去～現在			
5	6月6日	ハウス ENとPA ENについて			
6	6月13日	法人所属と個人事業主について			
7	6月20日	演奏家からのマイクセレクト・セットアップについて			
8	7月4日	残響について 圧縮系について 周波数(EQ)について			
9	7月11日	まとめ・質疑応答			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	9時間中 4時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	著作権論		担当講師	曾山良一	
講師実務経験	現 JASRAC・CISAC・MPN会員				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	45 分
修 得 目 標	音楽著作権の根幹を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月9日	経験から踏まえて自己紹介・授業ガイダンス			
2	5月16日	音楽著作権の定義			
3	5月23日	著作権の保護期間(日本・世界)			
4	5月30日	CISAC・JASRAC・MPNについて			
5	6月6日	著作権・財産権について			
6	6月13日	著作権隣接権について(支分権)			
7	6月20日	原版ビジネスについて			
8	7月4日	REMIXに於ける実演家人格権について			
9	7月11日	まとめ・質疑応答			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	9時間中 4時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	楽曲分析		担当講師	永盛 岳生	
講師実務経験	自身のバンドにて音楽レーベルよりデビュー。アーティスト専属契約。TV、CM楽曲タイアップ等。				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
期	修 得 目 標				
前期	ポップミュージックを中心に音楽理論・文化的背景・社会的背景等の観点から分析、考察する事で音楽に対する深い理解を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月9日	授業ガイダンス			
2	5月16日	ポップミュージックの基礎知識			
3	5月23日	ブラックミュージック分析・歴史とその功績			
4	5月30日	ロックミュージック分析・誕生の経緯とその発展			
5	6月6日	パンク誕生の文化的、社会的背景とサウンドの変遷			
6	6月13日	ニューウェーブの登場とそのサウンドが与えた影響			
7	6月20日	ポップミュージックにおける歌詞の分析			
8	7月4日	ダンスミュージック分析・70年代テクノから現在の音楽シーンまで			
9	7月11日	まとめ、テスト対策			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	9時間中 4時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	REC実習Ⅲ		担当講師	金沢琢司	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	
					270 分
修 得 目 標	スタジオシステムを信号の流れと仕組みを理解し、機材操作技術の習得とDAWとのシステムを修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月10日	セッティング基礎1 ドラム録音のマイク選定・アレンジをはじめスタジオを機材について実践する。			
2	5月17日	セッティング基礎2 ベース・ギター・キーボード・ボーカル録音のセッティング方法を実践する。			
3	5月24日	セッティング基礎3 リズム録音のセッティング実践。			
4	5月31日	セッティング基礎4 ボーカル録音実践。			
5	6月7日	録音基礎1 バンドレコーディングを行う①			
6	6月14日	録音基礎2 バンドレコーディングを行う②			
7	6月21日	録音基礎3 バンドレコーディングを行う③			
8	7月5日	録音基礎4 バンドレコーディングを行う④			
9	7月12日	トラックダウン 録音した音源を用いてラフミックスを完成させる。			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各事業にてプリント配布				
注意事項	54時間中 19時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	ProTools実習Ⅲ		担当講師	金沢琢司	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	135 分
修 得 目 標	ProToolsの基本操作と概念をマスターしエンジニアとして必要な技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月11日	i/o設定(インプット・アウトプット・パス)の概要			
2	5月18日	編集モードと編集ツールの機能			
3	5月25日	編集モードと編集ツールの機能使用概要			
4	6月1日	クリップゲイン機能			
5	6月8日	タイムラインと編集操作の選択と理解			
6	6月15日	トラックグループ、VCAの操作			
7	6月22日	オートメーション機能の操作			
8	7月6日	トラックの複製・バウンス・コミット機能			
9	7月13日	ショートカットの概要			
評価方法	定期試験点数(30%)実技修得度(70%)平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:B				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	各回授業にてプリント配布				
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	DTM実習Ⅲ		担当講師	作山 厚	
講師実務経験	DTM・ベース講師経験 / 楽曲配信・BGMサイト楽曲提供				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	135 分
修 得 目 標	Cubaseを使用した楽曲制作を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月11日	DTM制作実習① DTM業界の動向について①			
2	5月18日	DTM制作実習② DTM業界の動向について②			
3	5月25日	DTM制作実習③ DTM業界の動向について③			
4	6月1日	DTM制作実習④ DTM業界の動向について④			
5	6月8日	DTM制作実習⑤ DTM業界の動向について⑤			
6	6月15日	DTM制作実習⑥ DTM業界の動向について⑥			
7	6月22日	DTM制作実習⑦ DTM業界の動向について⑦			
8	7月6日	DTM制作実習⑧ DTM業界の動向について⑧			
9	7月13日	DTM制作実習⑨ DTM業界の動向について⑨			
評価方法	作品提出評価(100%)、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:C				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト					
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	SR技術概論Ⅲ			担当講師	森本 信		
講師実務経験	レコーディングエンジニア・サウンドデザイナー・ミュージックディレクタープロダクション&アーティストマネジメントほか						
対象学年	2	学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態	講義
期間	前期	総授業回数	9	回	1回あたりの授業時間		135 分
修得目標	スタジオ録音・音楽業界のシステムを習得するを修得する。						
回数	日程	【授 業 計 画】					
1	5月12日	講義内容ガイダンス					
2	5月19日	音楽業界のシステム／演習問題小テスト					
3	5月26日	音楽業界の歴史とビジネス／演習問題小テスト					
4	6月2日	音響学音響物理基礎の復習とアドバンス／演習問題小テスト					
5	6月9日	電気音響の復習とアドバンス／演習問題小テスト					
6	6月16日	電気音響機器の復習とアドバンス／演習問題小テスト					
7	6月23日	録音手法の復習とアドバンス／演習問題小テスト					
8	7月7日	ミキシング技法／演習問題小テスト					
9	7月14日	JAPRS検定試験解説					
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A						
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)						
テキスト	JAPRSサウンドレコーディング技術概論、サウンドレコーディング技術認定試験問題集ほか						
注意事項	27時間中 10時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)						

科目名	就職ガイダンス		担当講師	一岡 永	
講師実務経験	音響会社勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	就職対象各専攻		授業形態
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	45 分
修 得 目 標	主体性を持って就職活動を進める上で必要な知識を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月12日	授業ガイダンス 就職活動状況について			
2	5月19日	受験促進、労働条件について(賃金、時間)			
3	5月26日	面接対策			
4	6月2日	受験促進、企業情報の提供			
5	6月9日	就職実習制度(企業研究)について			
6	6月16日	受験促進、メールの送り方、オンライン面接について			
7	6月23日	企業講話			
8	7月7日	OB講話			
9	7月14日	受験促進、企業情報の提供			
評価方法	2/3以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト	無し				
注意事項	9時間中 4時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	時事研究		担当講師	山田 佳晴	
講師実務経験	テレビ・放送関連会社勤務				
対象学年	2 学年	対象コース	スタッフ関連科目受講者	授業形態	講義
期 間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	45 分
修 得 目 標	ニュース・時事問題を読み解き、日常生活の思考・行動に活用する力を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	5月12日	授業ガイダンス、時事研究について			
2	5月19日	直近のニュースについて①			
3	5月26日	直近のニュースについて②			
4	6月2日	直近のニュースについて③			
5	6月9日	直近のニュースについて④			
6	6月16日	直近のニュースについて⑤			
7	6月23日	直近のニュースについて⑥			
8	7月7日	直近のニュースについて⑦			
9	7月14日	講義振り返り、試験対策			
評価方法	定期試験(筆記試験)100%、平常点±10点(出席率、提出物、授業態度・取組状況など) 成績評価方法:A				
評価	上記総合評価点 S(100-90) A(89-80) B(79-60) C(59-50) D(49以下 不可)				
テキスト	無し				
注意事項	9時間中4時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	イベント実践(新入生歓迎ライブ前)		担当講師	金沢 琢司・八幡 淳・曾山 良一 森本 信・永盛 岳生・作山 厚	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務(金沢 琢司)、ラジオパーソナリティ(八幡 淳)、 Recエンジニア経験(曾山 良一)、レコーディングエンジニア(森本 信)、 アーティスト専属契約(永盛 岳生)、DTM講師(作山 厚)				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻	授業形態	講義/実習
期間	前期	総授業回数	9 回	1回あたりの授業時間	270 分
修得目標	イベント実施に向けて連続的にイベント準備を進める事で、より実践的に知識や技術を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	4月17日	新歓ライブに向けたレコーディング① / 新歓に向けたラジオ企画実習①			
2	4月18日	新歓ライブに向けたレコーディング② / イベントのための音楽概論・著作権論①			
3	4月19日	新歓ライブに向けたレコーディング③			
4	4月20日	新歓ライブに向けたレコーディング④ / イベント用音声編集①			
5	4月21日	新歓ライブに向けたレコーディング⑤ / イベントのためのサウンドレコーディング概論①			
6	4月24日	新歓ライブに向けたレコーディング⑥ / 新歓に向けたラジオ企画実習②			
7	4月25日	新歓ライブに向けたレコーディング⑦ / イベントのための音楽概論・著作権論②			
評価方法	2/3以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト					
注意事項	42時間中 15時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				

科目名	イベント実践(定期公演前)		担当講師	金沢 琢司・八幡 淳・曾山 良一 森本 信・永盛 岳生・作山 厚	
講師実務経験	レコーディングスタジオ勤務(金沢 琢司)、ラジオパーソナリティ(八幡 淳)、Recエンジニア経験(曾山 良一)、レコーディングエンジニア(森本 信)、アーティスト専属契約(永盛 岳生)、DTM講師(作山 厚)				
対象学年	2 学年	対象コース	スタジオサウンド専攻		授業形態 実習
期 間	前期	総授業回数	18 回	1回あたりの授業時間 270 分	
修 得 目 標	各専攻間での連携、コミュニケーションを応用し、より実践的な技術、知識を修得する。				
回数	日程	【授 業 計 画】			
1	8月21日	定期公演に向けたレコーディング① / 定期公演に向けたラジオ企画実習①			
2	8月22日	定期公演に向けたレコーディング② / イベントのための音楽概論・著作権論①			
3	8月23日	定期公演に向けたレコーディング③			
4	8月24日	定期公演に向けたレコーディング④ / 定期公演用音声編集①			
5	8月25日	定期公演に向けたレコーディング⑤ / イベントのためのサウンドレコーディング概論①			
6	8月28日	定期公演に向けたレコーディング⑥ / 定期公演に向けたラジオ企画実習②			
7	8月29日	定期公演に向けたレコーディング⑦ / イベントのための音楽概論・著作権論②			
8	8月30日	定期公演に向けたレコーディング⑧			
9	8月31日	定期公演に向けたレコーディング⑨ / イベント用音声編集①			
10	9月1日	定期公演に向けたレコーディング⑩ / イベントのためのサウンドレコーディング概論②			
11	9月4日	定期公演に向けたレコーディング⑪ / 定期公演に向けたラジオ企画実習③			
12	9月5日	定期公演に向けたレコーディング⑫ / イベントのための音楽概論・著作権論③			
13	9月6日	定期公演に向けたレコーディング⑬			
14	9月7日	定期公演に向けたレコーディング⑭ / イベント用音声編集②			
15	9月8日	定期公演に向けたレコーディング⑮ / イベントのためのサウンドレコーディング概論③			
16	9月11日	定期公演に向けたレコーディング⑯ / 定期公演に向けたラジオ企画実習④			
17	9月12日	定期公演に向けたレコーディング⑰ / イベントのための音楽概論・著作権論④			
18	9月13日	定期公演に向けたレコーディング⑱			
評価方法	2/3以上の出席で「修得済」評価				
評価	「修得済」評価(点数評価は行わない)				
テキスト					
注意事項	108時間中 37時間の欠席で定期試験受験不可=卒業ができません(留年となります)				